

# 令和3年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立日出支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長のリーダーシップのもと、時代・社会のニーズや学校の教育課題を捉え直し、新しい取り組みが行われている。また、学校運営計画の重点目標が適切に修正され、わかりやすく設定された。校長のビジョンが、教職員に浸透しつつあり、取り組みの成果を期待したい。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	連絡調整会議を設定し、ミドルリーダーの連携、進捗の共有の場として機能しており、教職員間の連携が強化されている。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時の迅速で適切な対応 * 法令に則った医療的ケア実施体制の整備	校内で起こったヒヤリ・ハット報告について、見やすく集約されており、教職員間で迅速に情報共有する体制が確立されている。前年度の比較による分析・解釈、個々の事例に対する対応の共通理解等の確実な取り組みが望まれる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組	学校ホームページの活用が積極的に行われており、特にアンケート集約結果をホームページに掲載するなど情報の公開を適切にされている点は評価できる。また、保護者アンケートの回収率も高く、保護者の要望を把握する取り組みが行われている。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 * 組織的に取り組む校内体制の整備	コロナ禍ではあるが、小・中学校等の要請に応じ、巡回相談などに積極的に取り組んでいる。
学習指導	1 授業	* 障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	カリキュラム・マネジメント推進計画チェックリストの活用により、教育課程の適切な検証・改善が行われている。教科指導においては、児童生徒の発達の段階に応じたグループ学習を取り入れており、個々の児童生徒に応じた指導が展開されている。教師の役割の明確化やICT活用始め、摂食指導以外の外部専門家との連携も取り入れ、さらなる教育の質の向上が望まれる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* チェックリスト等に基づく実態把握の実施 * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 * 保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	カリキュラム・マネジメント推進チェックリストが効果的に活用され、教育課程の改善に生かされている。また、個別の指導計画と通知表をリンクさせた開示方法は評価できる。
	3 授業研究・授業改善	* 社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 * 計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	時代・社会のニーズや学校の教育課題等に基づいた学校研究に取り組んでおり、研究の成果を日々の教育活動に生かすことを期待する。また、ICT活用等については、外部専門家を活用し、授業における効果的な活用の研修・研究が望まれる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握	進路支援の手引きは、内容も充実しており、本人・保護者に対して、進路希望の達成に向けたきめ細かい進路指導を行っている。また、卒業後の適切な支援により、高い職場定着率が見られる点は評価できる。
	2 就業体験の機会の確保	* 福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	学校全体で、実習先や就労先の確保に向け、職場開拓を積極的に行っている。毎年実施している事業主との懇談会や施設長との情報交換会をとおして、児童生徒の着実な希望進路の達成を目指すとともに、時代にあった作業学習の種目の検討など教育活動の充実が望まれる。
	3 職場開拓	* 地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 * 教職員・保護者が一丸となった職場開拓	ジョブ・コンダクターによる地域の企業や福祉施設、福祉・労働の関係機関等との連携が適切に取られている。
豊かな心・健やかな体の育成	1 社会自立に向けた教育	* 互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 * 卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	児童生徒同士の豊かな人間関係を育成する指導を行っている。卒業後の生活を見通し、社会自立に必要な情報モラル、社会規範等のさらなる指導の充実が望まれる。
	2 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	高等部のアンケート回収が高いなど保護者のニーズを把握したうえで、指導にあたっている。
	3 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、児童生徒理解を適切に行い教育相談を行っている。
	4 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	コロナ禍であるが学校間交流や居住地域交流をビデオ・zoomを使用し可能な取り組みが行われている。
	5 安全管理・医療的ケア	* 教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制が整備	家庭や地域の関係機関等と連携を図り、校舎の安全点検など安全な環境づくりを行っている。また、医療的ケア実施体制についても整備されている。さらなる安全な環境づくりに向け、ヒヤリ・ハット報告については、昨年度との比較等検討方法を見直すことが望まれる。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	* 教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	教育活動全般において、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じた適切な配慮がなされている。さらなる、児童生徒理解に向けた取り組みの充実を期待する。
総合評価	校長のリーダーシップのもと、学校運営計画がミドルリーダーをはじめ教職員に浸透しており、今後の成果が期待できる。さらなる教育活動の充実のため、進路指導の充実、自立活動の指導内容の工夫、ICTを活用した授業のあり方等の検討が望まれる。		
校長コメント	第三者評価委員の皆様からいただいた評価により、本校のこれまでの取り組みについて、継続していくと良いもの、より発展させるべきもの、改善が必要なものを明確にさせていただきました。この評価結果をもとに具体的な対応策を検討して、次年度の学校評価実施計画に盛り込むことにより、学校教育目標である「主体的に自ら生きる力を備えた、心豊かで積極的に社会参加・自立をめざす児童生徒の育成」の達成に向けて職員一丸となって努力してまいります。特に、授業改善の推進については、ICTの活用推進、生徒の発達段階に応じた縦割り授業の更なる工夫、チーム・ティーチングにおける各教員の役割の明確化、情報モラル教育の強化、自立活動や作業学習の指導内容の工夫等の対策を各学部で具体化し、年間指導計画や個別の指導計画に反映させて実践していきます。このたびの評価を踏まえ、本校の学習指導や進路指導、学校の安全管理等のさらなる充実を図るため、多くの外部専門家から指導助言を仰ぐとともに、保護者や地域の方々、関係機関との連携を深めつつ、組織的に学校改革を進めていく決意です。		